

話題の書籍

ヒトをはじめ生物は、一定のリズムと周期性をもって生活を営んでいる。このリズムの乱れが周期性の異変を引き起し、その結果が症状・疾患の原因となる。また他方障害や疾患が発症するところのリズムが乱れ、周期性にも変調が現れる。

以上の一連の変化は月经周期において最も顕著に見られる。規則的な周期で月经が継続して発来することは、成

熟した女性が心身ともに健康である最大の証機能が健全であることを示している。また女性の生殖機能が正常であることなどを確認するた

らの変化を的確に把握する簡便かつ信頼の高い方法の一つが基礎体温の測定結果を分析することであり、その生理的意義や臨床での有用性についての検討が温の軌跡から学ぶ、女性のところ・からだ・リズム』には、これまでに明らかにされたとともに、最近のトピ

な視点から、基礎体温測定結果の分析に基づいた女性の生涯を通じての生活習慣の改善のための介入方法についてまで記載されてい る。基礎体温の記録をこのような基礎体温測定のメリットは十分に理解していても、多様なパターンで生活している今日の女性にと 義は大きい。

みが促されることの意  
義は大きい。

Nightを用いた新しい測定法が紹介されてい

もつと知りたい！基礎体温のこと

基礎体温の軌跡から学ぶ、女性のこころ・からだ・リズム

監修 日本家族計画協会会長 松本清一  
基礎体温計測推進研究会 編著／十月舎

のリズムが乱れ、周期性にも変調が現れる。以上の一連の変化は月経周期において最も顕著に見られる。規則的で発来することは、成

めには、月経時の出血  
が視床下部・下垂体・  
卵巣系によってコント  
ロールされた子宮内膜  
の変化によるものであ  
ることを明らかにしな  
ければならない。これ

積み重ねられて来た。今般、日本家族計画協会松本清一会長が監修され、基礎体温計測推進研究会が編著して十月舎から出版された『もっと知りたい！基礎体温に留まらず多面的ツクスをも交え基礎体温についての情報が総合的にまとめられてゐる。さらに本書では、従来の卵巣機能や性機能の指標としての基礎体温に留まらず多面的

実行することで得られる記録認知効果によつて自己肯定感・自己効力感がもたらされるとの考え方を導入することで、自己のヘルスケアへの積極的な取り組みによる測定を連日適切に実施することには大きな制約がある。この点を解決する方法として衣服内温度計Ran-s

（東京医科歯科大学名  
誉教授・NPO Healthy  
Aging Projects for  
Women 理事長  
麻生武志）



（東京医科歯科大学名  
誉教授・NPO Healthy  
Aging Projects for  
Women 理事長  
麻生武志）